

令和6年度第3回宇部市短期集中予防サービス（通所型C）検討委員会 議事録

日 時：令和6年11月20日（水）19時～20時30分

場 所：宇部市役所 3階 3-4会議室

出席者：委員15名、事務局6名

1 高齢福祉課長あいさつ

2 議事

報告1 「短期集中予防サービス（通所型C）試行サービスの途中経過について」事務局から説明

〔委員〕：ホープノート内6ページの『今までしてきたこと・これからしたいこと』について、先ほどの説明で最初に「してみたい」にチェックが付けにくいのでサービス途中に振り返るとありましたが、途中でチェックを追加する場合は最初にチェックしたものと区別できるような記号を変えてみるとより良いのではないかと。また、チェックした項目が地域にあるのか調べたいと思うので地域にその受け皿があるのか、地域にどのような取り組みがあるかを把握することができるのか。地域に資源がない場合はどうするのか。

〔事務局〕：「してみたい」の項目はこれから卒業後の目標に繋がっていくので、卒業後の目標は生活支援コーディネーターである社会福祉協議会をはじめ利用者の卒業までの間に関与される支援者たちで地域資源などを具現化出来たらと考えている。社会福祉協議会としてはいかがか。

〔委員〕：社会福祉協議会では生活支援コーディネーターを受託しているので、地域のサロンなどの情報はある程度把握している。ただ、言われるように必ず近くにあるとは限らないので、現時点で少し関わっているが、中には資源の提案が難しいケース出てくるかと思う。希望としてはこれをきっかけに新しい資源が見つかるかと思っている。

〔委員〕：同ページに関連して「してみたい」と「興味関心がある」は少し意味合いが違うのではないかと。してみたいけど実際自分ができるか分からないということがあるので、できるか分からないけど興味があることを聞く項目があれば、違った反応があるのではないかと。

〔事務局〕：「してみたい」という表現は書きづらい部分があるので、次につながるような書きやすい表現に見直していきたい。

〔委員〕：短期集中予防サービスを3ヶ月行うことになるが、途中続けることが難しい利用者が出た場合は、事業所任せなのかそれとも何か提案できるものがあるのか。例えば、宇部市ではつつポイントがあったが、何かモチベーションを維持するような取り組みがあるか。

〔事務局〕：本市の事業で現在は「うべポイント」というものがあるが、現状はつつポイントほどの規模感はない。3ヶ月の間で接する方が興味関心を引き出せるような面談が重要になってくるのかと思う。

〔委員〕：3ヶ月間は毎週事業所へ行くが、3ヶ月後以降は定期的に経過を追うことは出来るのか。

【事務局】：短期集中予防サービスの卒業後が大切になってくるので、体の変化や生活の様子などの経過をモデル事業通して追っていく。こういった社会資源に繋がってこういった活動が継続されているか1年間経過を見ていく。

〔委員〕：サービス担当者会議のような支援者がやりとりする場が定期的にあるのか。

【事務局】：サービス提供前に担当者会議があり、サービス提供中では提供6・7回目頃に中間カンファレンス、10・11回目頃に最終カンファレンスがある。

〔委員〕：生活支援コーディネーターが入られると先ほどの卒業後の受け皿の話で相談する機会があるかと思う。これから件数が増えていく中できちんと対応できるのか来年度を見据えてどう考えているか。

【事務局】：最初のサービス担当者会議や中間カンファレンスはケースによっては生活支援コーディネーターが参加する場合がある。最終カンファレンスに関しては試行サービスでは必須で参加する流れになっている。これが本格実施では月約80人を毎回マッチングするとなると今の人員体制では難しいと考えている。何か生活支援コーディネーターをフォローできるような体制づくりを検討していく。

〔委員〕：通所型C事業所を実施している者として、今はまだ提供人数が少ない状況だが、本格実施後人数が増えた場合の送迎問題がある。また、サービス提供以外の担当者会議やカンファレンスを行うための日程調整やそれに向けて準備など目に見えない業務が結構ある。今後本格実施に移行した場合、それらの調整等にサービスに従事する者以外での人員確保が必要になるのではと思う。試行サービスをして利用者への効果は実感できているが、本格実施では月80人だとそれだけ受け入れる事業所数が増えるのか。そしてサービスの質の担保も必要かと思う。今後どんなかたちになっていくのか運営していく上で心配なところがある。

【事務局】：新聞に今回の試行サービスの記事が掲載されたが、今後試行サービスはどんなことをしているとか結果について周知していく必要がある。それをきっかけに事業所に数多く手を挙げてもらい、月80人をより分散できるような体制を作っていきたい。事業所が増えるよう市の方でも事業の意義や効果について丁寧に説明していく。

〔委員〕：今日ちょうど中間カンファレンスを行ったが、中間カンファレンスがありその後卒業に向けての最終カンファレンス、そして最後に利用者と卒業判定会議とある。最初は実感がなかったが今後会議が重なると負担がかかる。中間カンファレンスなど支援者同士の会議は現地に行かなくてもいいとか効率化できるよう検討して欲しい。

【事務局】：今回試行サービスの中で、会議の回数や付随する業務について課題があることが分かってきた。事業効果があるということが非常に大事になってくるので、この事業を運営できる環境を本格実施に向けて業務の効率化や業務フローで省略できるところがないか検証しながら見直していく。

〔委員〕：(別委員へ質問) 今回初めての取り組みで、スムーズに受け入れができたのか。

〔委員〕：担当者会議は面談する担当者が行き、利用者の方の様子を確認することができた。また、同行訪問報告書にある程度の目標が立ててあるので、その情報を基に実際話をしながら方向性を決めていくことができた。あと、提供内容は先進地の事業所へ見学に行く機会があり、実際提供されている現場を見させていただいたのが導入に至る経緯としてよかったと思う。あまり時間がない中で、研修と現地見学があったのが有効であった。

議題１ 「同行訪問の検証について」事務局から説明

【事務局】：同行訪問については、短期集中予防サービス前に実施することは非常に意義があると感じている。利用者の方からの反響もよく最終的に具体的なプランに繋がっているところもある。ただ、日程調整の方法など見直す必要があるので、試行サービスを検証し本格実施に繋げたい。また、同行訪問を行うメンバーで勉強会や意見交換会が出来たらと考えている。

〔委員〕：同行訪問後、必ず短期集中予防サービスを利用するわけではない認識でよいか。同行訪問で問題が解決出来たらそこで終了でもよいのか。

【事務局】：その通り。

〔委員〕：他市では、初回の同行訪問は研修会後、経験者に帯同しその後一人で出務している。リハ職でも職種や経験によって視点が違うことがある。宇部市でもＯＪＴ的な機会があるといいのではないかと思う。

〔委員〕：資料で同行訪問リハ職と通所型Ｃ事業所の情報共有の場があった方が良く意見があったが、報告書が事業所まで見ることができるとアセスメントの視点等が見えてくるかと思う。

【事務局】：通所型Ｃ事業所から同行訪問リハ職に詳しく聞きたいと意見をいただいている。現状、報告書をそのまま事業所へ提供していないため、今後どう扱うか検討していく。また、報告書の項目変更や追加など内容についても協議していく。

議題１について承認。